

京都市避難所運営マニュアルの改定業務 第1回検討会・ワークショップ 摘録

1 開会

2 挨拶

(事務局)

この十数年で、コロナ禍等、社会が大きく変わった。避難所避難以外に、在宅避難や分散避難、ペットと共に避難する等、避難形態が多様化した。熊本地震では、死者数全体の8割、能登半島地震では6割の方が災害関連死。国としても問題意識があり、避難所等における生活環境の向上の指針が示され、本市としてもマニュアル改定に取り組む。今回は、基本方針などについて議論いただきたい。

熊本地震の語り部の方が、大災害が起これば避難生活が始まる。普段からそのイメージを持つておくことが大切と言われていたことが印象的。本市職員はもちろん、他都市応援や、外部支援もあるが、直ちに避難所には来ることが出来ない。そのため避難所に集まった方々の共助での避難所運営が必要である。

3 議題等

(1) 検討会の趣旨と進め方

(事務局)

配布資料に基づき、説明。

(委員)

外部委員挨拶。

(2) 避難所運営マニュアルの現状(アンケート結果報告)

(事務局)

配布資料に基づき、説明。

(3) 避難所運営マニュアルの改定方針

(事務局)

配布資料に基づき、説明。

(4) 質疑応答

(委員)

アンケートの訓練実施状況について、約7割が、ほぼ毎年実施とあるが、避難所運営訓練なのか。避難所運営訓練をほぼ毎年行っているところは少ないと思う。

(事務局)

避難所運営訓練は、主に学区の防災訓練の中で行われるが、訓練の内容は、学区によって異なる。避難所運営資機材の使用方法的確認などを行った場合も、集計には含めている。

(委員)

改定マニュアルの基本方針1について、本マニュアルは、自主防災会の担当者が避難所開設に当たって見るものなのか、市民が平時から見ておくものなのか。誰に向けたマニュアルなのか、対象がはっきりしない。

(事務局)

基本方針1は、避難所避難だけではないという趣旨で、改定にあたって追加した。避難所開設に当たり、地域の役員の方にも知っておいていただきたい一方で、市民にも公開されるものなので、市民向けの表記もある。表現の仕方は検討する。

(委員)

マニュアル本編をもとに、避難所ごとにマニュアルを作っていくのか。地域にとって見やすいマニュアルとした
い。各学区で円滑なマニュアルづくりを進めるに当たっての工夫はあるのか。

(事務局)

第2回検討会で、マニュアルの地域展開について提示させていただき、議論いただく予定。

(事務局)

各避難所運営マニュアルのひな形としても活用していただける概要版も改定予定。見やすい資料として、概
要版を用いることも考えていただきたい。

(5) ワークショップ

検討会委員に各区・支所の地域防災係長を含め、京都市避難所運営マニュアルの改定にあたっての要点
について、5グループに分かれてワークショップを実施。

4 その他(事務連絡)

次回、12月頃に第2回検討会を開催予定。